

この世界の片隅に

どこにでもある毎日の暮らし。昭和20年、広島・呉。
わたしはここで生きている。

1944（昭和19年）年2月。18歳のすずは、突然の縁談で軍港の街・呉へとお嫁に行くことになる。新しい家族には、夫・周作、そして周作の両親や義姉・径子、姪・晴美。配給物資がだんだん減っていく中でも、すずは工夫を凝らして食卓をにぎわせ、衣服を作り直し、時には好きな絵を描き、毎日の暮らしを積み重ねていく。
1945（昭和20）年3月。呉は、空を埋め尽くすほどの艦載機による空襲にさらされ、すずが大切にしていたものが失われていく。それでも毎日が続く。そして昭和20年の夏がやってくる。

出演：のん

細谷佳正 稲葉菜月 尾身美詞 小野大輔 潘めぐみ
岩井七世 牛山茂 新谷真弓/澁谷天外(特別出演)

監督：片淵 須直

アニメーション映画監督。1960年生まれ。

日大芸術学部映画学科在学中から宮崎駿監督作品『名探偵ホームズ』に脚本家として参加。『魔女の宅急便』（89/宮崎駿監督）では演出補を務めた。TVシリーズ『名犬ラッシー』（96）で監督デビュー。その後、長編『アリエテ姫』（01）を監督。TVシリーズ『BLACK LAGOON』（06）の監督・シリーズ構成・脚本。2009年には昭和30年代の山口県防府市に暮らす少女・新子の物語を描いた『マイマイ新子と千年の魔法』を監督。口コミで評判が広がり、異例のロングラン上映とアンコール上映を達成した。またNHKの復興支援ソング『花は咲く』のアニメ版（13/キャラクターデザイン：こうの史代）の監督も務めている。

原作：こうの史代『この世界の片隅に』（双葉社刊）

音楽：コトリンゴ

監督・脚本：片淵須直

企画：丸山正雄/監督補・画面構成：浦谷千恵/キャラクターデザイン・作画監督：松原秀典

美術監督：林孝輔/プロデューサー：真木太郎

製作統括：GENCO/アニメーション制作：MAPPA/配給：東京テアトル

製作：「この世界の片隅に」製作委員会

©この世界の片隅に/「この世界の片隅に」製作委員会

Konosekai.jp

Twitter @konosekai_movie Facebook: @konosekai.movie

《授賞にあたって》

この世界の片隅「を」

シグニス・ジャパン顧問司祭 晴佐久昌英(カトリック司祭)

主人公のすずが、道端にしゃがみこんで何かを見つめている。アリの行列だ。この世界の片隅にけなげに生きている、小さなア리를優しく見守る、すずのまなざし。

そのまなざしこそは、最も小さな命をいとおしむ、この映画のまなざしである。

いつの世にあっても、争いを起こすのは、自分が「この世界の中心」だと思い込んでいる人たちだ。彼らは、重くて固い靴で行進し、自らがア리를踏みつぶしていることなど、意にも介さない。彼らにとって、「この世界の片隅」など存在しないのである。

分断と排除の声が高まる、今の時代に最も必要なこと、それは、この世界の片隅をまっすぐに、敬意をもって見つめることなのではないか。この世界の片隅に幸せが訪れない限り、この世界のだれも幸せにはなれないのだから。

イエス・キリストは、無力な人、弱い立場の人について、弟子たちにこう教えた。

「これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい」（マタイ18・10）

もしも映画に、世界を幸せにするという使命があるならば、この世界の片隅をきちんと描くことを置いてほかにない。その意味で、片隅の人生に秘められた価値を信じ、片隅の涙に共感する観客の心を信じたこの映画は、間違いなくその使命を果たしている。今も世界の片隅で、理不尽な苦しみに耐えて必死に生きている、無数のすずと心をひとつにして、ここに日本カトリック映画賞を贈りたい。

すずが、自分を見染めてくれた周作に言ったひとことが、一瞬、映画を見ている自分に言われたような気がして、ぐつと来た。

「ありがとう。この世界の片隅に、うちを見つけてくれて」

●日本カトリック映画賞とは……

SIGNIS JAPAN(カトリックメディア協議会)は放送・映画・視聴覚メディア・インターネット等のメディアを使って、キリストのよい知らせ(福音)を広めたいと望んで、活動しているカトリックの司祭、修道者、信徒、求道者の団体です。

「日本カトリック映画賞」は、前々年の12月から前年の11月まで

に日本で公開された映像作品の中から、カトリックの世界観と価値観にもっとも適う作品にSIGNIS JAPANから贈られる賞で、今年で41回目を数えます。

SIGNIS JAPAN <http://signis-japan.org>

SIGNIS ASIA <http://signisasia.org>

SIGNIS WORLD <http://signis.net>

1976年 土呂久
1977年 ねむの木の詩が聞こえる
1978年 春男の翔んだ空
1979年 マザー・テレサとその世界
1980年 父よ、母よ
1981年 教育は死なず
1983年 この子を残して
1984年 国東物語
1985年 銀河鉄道の夜
こんいちわ地球家族
1986年 海と毒薬
1987年 ゴンドラ
1988年 火垂るの墓

1989年 黒い雨
戦場の女たち
1990年 ベンボスタ子ども共和国
1991年 あーす
1992年 阿賀に生きる
1993年 スベインからの手紙
1994年 学校
1995年 地球交響曲第二番
1996年 絵の中のほくの村
1997年 愛の黙示録
1998年 ユキエ
1999年 ナビイの恋
2000年 老親
-豪日に架ける- 愛の鉄道

2001年 GO
2002年 チョムスキー9.11
2003年 HIBAKUSHA—世界の終わりに
2004年 ライファーズ
2005年 村の写真集
2006年 博士の愛した数式
2007年 ひめゆり
2008年 おくりびと
2009年 風のかたち
2010年 月あかりの下で ある定時制高校の記録
2011年 エンディングノート
2012年 隣の人
2013年 先祖になる
2014年 谷川さん 詩をひとつ作ってください
2015年 あん



SIGNIS JAPAN(カトリックメディア協議会)事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42 女子パウロ会内

E-mail:info@signis-japan.org

担当:大沼 携帯090-8700-6860

